



車いす用スロープの危険性を放置！ 事故が起こらないと改善しない企業体質！ これで安全第一の輸送サービスと言えるのか！

新幹線をご利用されるお身体の不自由なお客様や、車いすでご利用されるお客様が、乗降時にホームと車両の隙間から転落することを防止するため、係員がスロープを掛ける取り扱いを行っています。しかし、最新の新幹線N700Sタイプにこのスロープでは、ずれ防止のフック等の掛かりが悪いという不具合が発生しており、利用数の多い駅においてスロープが脱落する事象が報告されています。

新幹線関西地本は、スロープの構造に問題があるとして、改善要求をJR東海関西支社に申し入れました。しかし関西支社は、交渉を拒否し窓口での回答に留め「構造的な問題は承知しているが不具合ではない。しっかりと確認して使用すること」（JR東海労新幹線関西地本HP関西業務ニュース&申「2/9業務連絡No.9」より）と、問題を承知しながら放置し、事故が発生した場合は、現場の社員に責任を転嫁しようとしています。

会社は、昨年10月末に「最新の技術を活用した経営体力の再強化～より安全で、より便利で、より快適な鉄道を目指して～」と題してプレス発表を行っています。その中で・**より安全に**「様々な面から安全性を高め、安心してご利用いただける輸送サービスを提供する」・**より快適に**「多様なニーズを汲み取り、新たな視点、柔軟な発想により、サービスの充実を図る」としています。しかし、**関西支社の回答はこれらに逆行しています。**

また本部も、2月20日に「新幹線ホームの車いす用スロープの不具合解消」に関する申し入れを行いました。

事故が発生してからでは遅いのです。危険の芽は早期に摘み取らなければなりません。

**私たちは、快適・安全に利用していただけるために取り組みます
是非ご意見お聞かせ下さい**